

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リカバリー焼津本町			
○保護者評価実施期間	2025年 9月 1日		～	2025年 10月 30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21名	(回答者数)	14名
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日		～	2025年 10月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 12月 1日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	二部屋の広い室内空間が確保できていることが大きなメリットとなっている。 活発に動き回る児童・生徒も多く在籍をしているので、更なる有効活用を図りたい。	広い壁面をスクリーンとして利用し、プロジェクタによる投影を行っているが、効果的な支援に役立っている。 半面、安易に動画鑑賞を希望する子ども達に対し、譲り合いの精神や集団行動の必要性、時間厳守の大切さなどを教えてゆくことも必須となっている。	二部屋それぞれの室内空間は広いものの、互いの見通しが非常に悪く、別室での支援状況が把握しづらい。 職員の立ち位置の工夫や情報連携の方法について、今後も試行錯誤を重ね、改善を図ってゆく。
2	多くの学校への送迎に対応を行っている。 (藤枝特別支援学校、同焼津分校、小川中学校、小川小学校、焼津西小学校、豊田小学校、わかば高等学院)	保護者のニーズに可能な限り応えられるよう、送迎業務の効率化に取り組んでいる。 帰宅時刻の指定がある家庭が 5 件、帰宅時に保護者不在の可能性のある家庭が 4 件ほどあり、より慎重な送迎計画の立案が必要となっている。	利用人数や職員の状況に合わせ、必要に応じて送迎開始の時刻を変更しているが、まだまだ改善の余地は残されていると思われる。 職員の負担増とならない範囲でより効率的に送迎業務が実施できるよう努めてゆく。
3	支援時間を延長するための「タイムケア」と、公的機関との連携を強化する「サポート加算Ⅱ」に取り組んでいる。	長期休業中の送迎を遅くして欲しいと望む保護者に対して 10分刻みの「タイムケア」を提案して実施したところ、高評価を頂き、今後も機会があるごとに活用したい旨の連絡を受けた。また、藤枝中央児相や焼津市子相センとの情報共有を密とするため「サポート加算Ⅱ」を設定したが、保護者からも共感を得ることができた。	「タイムケア」に関しては職員の負担増につながる懸念もあるため、慎重に実施計画を策定してゆく。 「サポート加算Ⅱ」に関しては保護者からの期待が非常に大きいと感じている。有益な情報共有を行うことにより利用児童は勿論のこと、保護者に対してのメンタルケアにも有効活用をしてゆく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	父母の会は存在せず、父母同士が交流する機会の設定や施設の見学会などが催されていない。	8 割以上の保護者が就業中であり、父母の会を設立しても参加のできない可能性が高く、運営方法も懸念される。 見学会のできない最大の理由は駐車場の確保である。 これがクリアできれば見学会実施の可能性は高くなる。	事業所見学会を長期（1～2週間）に設定し、参加希望の予約を事前に取り、来所方法も踏まえて人数調整を行えば実施が可能かも知れない。今後の検討課題とする。
2	事業所の活動状況を定期的に発信する術を持っていない。 月刊的な広報誌の発行ができていない。	以前から取り組むべきと考えていたが、なかなか最初の一步が踏み出せていない。 写真投稿についての保護者からの意向調査は全員から回答を頂いているので適切な対応は可能である。	とにかく広報誌第 1 号の発行と、継続して作成するための実施計画立案が必要である。特定の職員のみが負担増とならないよう、効率的な業務分担も考えなくてはならない。 新年度のスタートに合わせ、4 月からの発行を目指す。
3	放課後児童クラブや地域児童との交流機会を今まで一度も設定をしたことがない。	近隣の放課後児童クラブの存在を把握していない。 また接触する機会もほとんどない。 利用している児童らの特性にも大きな差異があり円滑な交流ができるかどうか疑問でありリスクも高い。	幸いなことに焼津地区にはリカバリーが 4 事業所あるためこの事業所同士の交流機会を増やしてはどうだろうか。 情報共有に関しても密に行うことができるので周到な事前準備も可能であり、駐車スペースの問題もクリアできる。室内空間的なキャパは十分にあるので実施の可能性を模索してゆく。